

2022年 新年のご挨拶



高森町長
草村 大成

新年を迎えて

謹んで新年のご祝辞を申し上げます。
町民の皆様には、お健やかに初春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

皆様には日頃から町政に対する温かいご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の多方面にわたる世界的な影響が長期化する中で、本町ではワクチンの集団接種体制により、県下でも早い段階で接種を終え、町民の皆様へ安心感をお届けすることができました。これも偏に、ご協力をいただいた医療関係者の皆様のお力添えと町民の皆様のご理解の賜物と改めて御礼申し上げます。

3回目のワクチン接種も集団接種体制で実施することとしており、安心して接種を受けていただけるよう準備を整えて参りますので、引き続きご協力をよろしくお願い申し上げます。

このような不安定な状況下ではありますが、昨年は将来の高森町の地域づくりを描く上で、大きな一歩を踏み出した1年となりました。

ひとつは、熊本県と熊本市が28年ぶりに策定した、今後20年～30年間の中長期的な道路整備の基本となる「新広域道路交通計画」に「阿蘇山都道路」と「阿蘇高千穂道路」が今回新たに構想路線として追加され、本町へのアクセスルートである国道325号線及び国道265号線

とのダブルネットワークや、災害時の代替道路等、県内主要道路計画と連動した道路網の強化が本町管内において期待されます。

本格的な高齢化社会の到来に備え、経済や人流、物流等のライフラインをしっかりと支えることができる「命の道」の必要性を十分に鑑み、後世にわたり恩恵を享受できるための準備を今後も整えて参ります。

次に、熊本県立高森高校では、全国初となる公立高校の新科「漫画関連学科」設置に向け、熊本県教育委員会、高森高校、漫画出版社(株)アミックス及び高森町が「マンガを活用した高森高校の魅力向上に関する連携協定」を締結し、来年4月からの新科設置と新入生受入れに向けた取り組みがスタートしました。地域になくはない教育、文化、地域活性化の中心的な役割と位置付け、関係機関と連携し持続可能な高森高校の実現に取り組んで参ります。

高森町では、高森町新教育プランにより、全国最先端の教育の情報化を実践し令和4年で11年目を迎えます。昨年は、全国で初の試みとなったオンライン上における「行幸啓」において天皇皇后両陛下より高森中央小学校の教育現場をご視察いただき、労いと励ましのお言葉をいただきました。

今後も、「将来の子どもたちに誇れる高森町」を目指し、ふるさと高森に誇りを持ち、国際化、情報化といった新たな時代を生き抜く次世代の子どもたちの育成とともに、2023年の南阿蘇鉄道の全線復旧及び熊本地震からの創造的復興に邁進致します。

町民の皆様におかれましては、引き続き感染症対策を心がけていただき、令和4年が健康で明るい年となりますことをご祈念いたしまして新年のご挨拶いたします。



高森町議会議長
佐伯 金也

仕上げる年

新年明けましておめでとうございます。
町議会を代表して新年のご挨拶を申し上げます。

昨年はコロナに始まりコロナに終わった年でしたが、ここ数年は平穏な一年を過ごした記憶がない様に思います。だからこそ今年こそはコロナ禍も終息し、我等が阿蘇山も静かにしてもう様に願いたいものです。

私たち議会も今年が仕上げる年になります。社会が落ち着きを取り戻し、町民の皆さんの生活を未来へ繋げる政治を実行したいと思えます。災害の復旧やコロナ対策でなく、純粹に町民のみなさんのための建設的な政策を提案して議会活動の証にしてみなさんに評価してもらいたいものです。

議会も昨年は7月に議長交代など、町民のみなさんを驚かせる出来事があり、大変ご心配をおかけしました。落ち着きのある、レベルの高い政治家集団に向上していくことで町民のみなさんのざわついた心を安心させるべきと責任を痛感しております。現代社会が多様化し、進化している中で議会が旧態依然のままでは町長のスピード感ある町政施策に付いていく事が出来ません。仕上げる年の本年、様々な議論を建設的に引き、議員各位の個性や政治力を一段と引

き出し、他の自治体が驚く様な議会に変貌できればと思います。

議長とは言え本町議会議員の一人として議員各位と共に素晴らしい高森町を創っていきける様に努力して参ります。

町民各位にはこの令和4年、各地域から出ておられる議員さんいろいろな意見を出してもいい、輝かしい高森町が未来に発展するようにご協力お願いいたします。

高森町議会

副議長 牛嶋 津世志

田上 更生

本田 生一

立山 広滋

芹口 誓彰

後藤 三治

後藤 清治

津留 智幸

後藤 巖

